

第5回小牧市東部まちづくり審議会 議事録

1 開催日時

令和3年12月24日（金）13時30分から15時30分まで

2 開催場所

小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

3 出席委員（名簿順）

増田 昇（会長）	大阪府立大学名誉教授
大塚 俊幸（職務代理）	中部大学教授
古池 嘉和	名古屋学院大学教授
和田 貴充	空き家活用株式会社代表取締役 CEO
蛭原 義裕	一般社団法人小牧青年会議所
田中 秀治	社会福祉法人小牧市社会福祉協議会
坪井 和巳	小牧商工会議所
秦野 利基	こまき市民活動ネットワーク
落合 勝之	陶小学校区地域協議会
深堀 修	篠岡学区地域協議会
中川 豊	光ヶ丘小学校区地域協議会
小柳 松夫	桃ヶ丘小学校区地域協議会
村上 富士男	大城小学校区地域協議会
原 正行	公募委員
三木 孝行	公募委員
渡邊 比呂子	公募委員

4 欠席委員

横山 幸司	滋賀大学教授
稲垣 武磨	尾張中央農業協同組合
柴田 良奈	小牧市小中学校 PTA 連絡協議会桃ヶ丘小学校母親代表
藤村 歩	公募委員

5 出席オブザーバー

浅田 裕人	愛知県交通対策課
南木 宏和	独立行政法人都市再生機構
小塚 智也	一般財団法人桃花台センター

6. 欠席オブザーバー

戸田 久嗣	愛知県県営住宅管理室
-------	------------

7 事務局

鵜飼 達市	都市政策部長
-------	--------

笹尾 拓也	都市政策部次長
平野 淳也	都市政策部東部まちづくり推進室長
加藤 宗礼	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係長
横井 久志	都市政策部東部まちづくり推進室 専門員
林 亮佑	都市政策部東部まちづくり推進室 主任
桂川 隼斗	都市政策部東部まちづくり推進室 技師

8 傍聴人数 4名

9 会議内容

1 開会

あいさつ

2 議事

- (1) 東部地域のこれからの考える 東部まちづくりワークショップの報告について
- (2) 第4回審議会の振返りについて
- (3) 東部振興構想(案)について
- (4) その他

3 閉会

■議事録

【事務局】

それでは、始めさせていただきたいと思います。

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

それでは、ただいまより第5回小牧市東部まちづくり審議会を開催させていただきます。

私は、都市政策部次長の笹尾でございます。よろしくお願いいたします。

まず初めに、資料の確認をさせていただきます。

本日の配付資料は、次第に記載したとおりでございます。御確認をいただきまして、不足等ございましたらお申し出いただきますようよろしくお願いいたします。

よろしかったでしょうか。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず初めに、増田会長より御挨拶をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【会 長】

皆さん、到着がぎりぎりになりまして申し訳ございません。

少しコロナも落ち着いているみたいですが、ぽつぽつと市中でオミクロンが出てきておるので、これから二、三週間のうち、また少し心配かなというような感じでございます。

今日の審議ですけれども、パブリックコメントの原案をある一定取りまとめて、パブリックコメントに乗っけるという議論の場でございますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

ここで御報告申し上げます。

本日の出席委員数は16名でございます。したがって、小牧市東部まちづくり審議会条例第6条第2項の規定により、本会議は成立いたしました。

それでは、以後につきましては、小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第2項に基づき、会長が会務を総理することとなっておりますので、増田会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【会長】

それでは改めまして、皆さんこんにちは。

今日、先ほど言いましたように、パブリックコメントの原案を取りまとめるということでございますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

お手元の次第でございますように、その他を含めて4議題ございますので、次第に基づいて順次進めさせていただきます。

最初に、東部地域のこれからを考える東部まちづくりワークショップの報告でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局】

東部まちづくりのワークショップの報告をさせていただきます。

お手元の資料のうち、資料2を御覧いただきたい。

資料2は、第1回目、第2回目と同様「東部まちづくりワークショップ・ニュースレター」と題しまして、第3回目の概要についてまとめたものとなっております。

では、この資料に沿って、ワークショップの内容を御報告いたします。

まず左上の「1. 開催概要」及び、その右隣の「2. オリエンテーション」でございますが、前回、前々回に引き続き、中部大学工学部の磯部教授に総合ファシリテーターをお願いし、全3回の締めくくりといたしまして開催いたしました。

今回は、去る11月14日日曜日に、前回と同じく小牧勤労センターを会場とし、「まちで深める」をテーマに、当審議会での議論内容の共有とともに、「取組のアイデアを実現するには」として、具体的なテーマごとに実際に取組を進めるために必要なことなどを話し合っていました。

当日は、前回に引き続いての方を中心に、31名の御参加をいただきました。

参加者の内訳といたしましては、学生など20歳代の方が13名、30から50歳代の方が7名、60歳代以上の方が11名、また、前回同様、お子さんを連れての参加もあり、和やかな雰囲気となりました。

次に、資料の右上、「3. 前回の振り返り」です。

前回「メイキット」というカードゲーム形式のツールを用い、様々なまちづくりのアイデアを出し合っていました。

この時間では、前回話し合ったグループに分かれて、出されたアイデアを、1年後をめどに実施するとした場合に、どのような準備や支援が必要なのかなど、アイデアの具体化について話し合いました。

続いて、資料の左下、「4. OSTの実施」です。

今後のまちづくりを見据えますと、参加者が主体的に考え、行動していくことが重要になっていきます。そこで、今回のワークショップでの経験を次年度以降の取組につなげていくため、OST（オープンスペーステクノロジー）という手法を使ったグループワークを行いました。OSTというのは、参加者の熱意と責任感によって運営され、複雑な課題に対し、短時間で具体的な成果を生み出す方法です。

具体的に言いますと、このワークショップには、少なからずまちづくりに関心のある方々がお集まりですので、そうした皆様のまちづくりへの熱意を引き出す意味で、1回目、2回目のワークショップを通じて考えたこと、あるいはそれ以外でも参加者が思う他の参加者と一緒に検討してみたいというトピックを立候補してもらいます。ほかの参加者の方は、上げられたトピックの中から、自分が議論してみたいものを選び、トピックごとのグループに分かれ、「そのトピックを実現するには」について、立候補した方を先導役に議論していただきました。

資料の左下の表に、立候補されたトピックを載せていますが、全部で7つのトピックが上げられました。

それぞれのトピックごとに、取組内容、取り組むの上での課題、必要な手助けについて話し合いましたが、1つピックアップしますと、桃・ブドウ等の特産物を作る農家の後継者不足が課題。農家の皆さんと共にどう工夫していくか考えてみたいというトピックでは、課題の一つとして、ぶどう農家が行っている直売が知られていないことがあり、その解決のためには、地域の人と農家が交流する機会をつくり、売れるきっかけをつくることが必要で、そのための具体策として、農家と小学校のつながりを一層強めたり、花が咲いている時期に人に来てもらい、大学生と連携してSNSを発信するといった意見が出ていました。

最後に、資料右下の「5. ふりかえり・総括」です。

全3回のワークショップには、地域の皆様のほか、外部の大学生の皆さんにも多数御参加いただきました。これら多様な方々が交流を深めながら東部地域の魅力や課題について認識し、最終的に参加者自身が実際に取り組みたいアイデアを具体化することまでつなげていくプロセスを共有してきました。この経験は、参加されたほとんどの方々はもちろん、一緒に参加した市職員にとっても、初めてのものであったと思います。

しばらく間は空いてしまいますが、この経験を次につなげて、具体的なアクションに続けていくことが、東部地域の振興を実現するためには大切なことですので、今回御参加いただいた皆さんに感謝しつつ、次の機会にはさらに参加の輪が広がるよう努めていきたいと思っております。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくお願いたします。

【会 長】

ありがとうございました。

今回も40名弱のメンバーが真剣に議論いただいて、アイデアをさらにブラッシュアップしたということでございます。

何か御意見、もしくは御質問ございますでしょうか。いかがでしょうか。

秦野委員、よろしくお願いたします。

【秦野委員】

参加者の年代構成を見ても、非常に若い方が多くて、やる気を持って議論ができたのかなというのが伝わってきます。

課題は、先ほども言われましたけれども、これで終わりにしてしまったら、逆に失望感に変わってしまいます。せっかくここまでできたのということなので、やっぱり次回の予定をしっかりと決めて、継続していくということが大事なのかなというような気がします。

そこで、この続きをいつ頃どんなふうで開催していくのかというような具体的なプランは現時点でおありなのかどうか。おありであれば、いつ頃第4回目というか、また新しくステージが変わるのかもしれませんが、これが行われるのかというようなことをお聞かせいただければと思います。

【会 長】

事務局、いかがでしょうか、今の御質問に対して。

【事務局】

今後の引き続きの展開ということでございますが、来年度の予算も確保して、こちらのほうを進めていきたいと思っています。またできるだけ早い段階から進め、アイデアの実践をトライアルという形でやっていきたいと考えております。

時期としましては、5月、6月ぐらいから開始できればと今考えているところでございます。以上です。

【会 長】

よろしいでしょうか。

【秦野委員】

はい。

【会 長】

ほか、いかがでしょう。

小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】

私は、ワークショップ全3回すべてに参加させていただきました。

当日は、自主的にテーマを出してということでもやりましたが、桃花台の関係の人が多くて、高齢者が手を挙げて中心になってやるということでしたので、私も超高齢者ですが、桃花台のことだけではなく、東部地域全体ということを考え、桃・ぶどうに関する農家との関係について提案し議論を行いました。若い人たちの積極的な意見がありましたが、残念なことに当事者の農家の方がお見えになりませんでした。これに関わるような人が出てきてくれると、もう少しいろいろな意見が深まったのではないかなというような気がしました。私自身も生産者と消費者の立場でいろいろな意見を話し合うということが大事だなと思っております。これは、今後の取組の中では当然

やられるというふうに考えております。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。
ほかはいかがでしょうか。
和田委員、どうぞ。

【和田委員】

取組としては素晴らしいなあと思っているのと、来年度もやられるということですが、どういうやり方をするかというのは、まだゼロベースな感じでしょうか。

【会 長】

いかがでしょうか。

【事務局】

今回と同じような形でワークショップの形式からまず進めたいとは考えておりますが、今回参加していただいた方や、大学、ほかの地域の関係者など、さらに募集して進めていきたいと考えております。

【和田委員】

ありがとうございます。
ワークショップも素晴らしいのですが、せっかく、今回のワークショップで課題が7つ出ているので、これをもうちょっと深掘りするというか、仮説が立ったので、今度は実際はどうかを検証していくべきかなと思っています。例えば、課題として農家さんの後継者不足ということが書かれていますが、もちろん後継者不足はあると思いますが、農家さんが本当に後継者を望んでいるのかどうかとか、どういう後継者が必要なのかとか、より具体的なことを今度ヒアリングしに行くという、検証しに行くということが重要なかなと思いますので、アイデア出しのワークショップは、ここまででいいと思っています、まずは今度検証して、そこから出てきた課題に対してまた話し合うみたいなところをやっていったほうがいいかなと、ちょっとアイデアベースですけど、思いました。

【会 長】

ありがとうございます。
三木委員も参加いただいたみたいですけど、何かコメントはございますでしょうか。

【三木委員】

先ほど、若い方が参加とありましたが、中部大学の方が大勢参加されていまして、その方にお話しする機会をいただけましたが、とてもいいアイデアを出されました。アイデアを出すだけで終わらずに、それを具体化できるのかどうかという検証をしていくことがとても大事だと思います。

【会 長】

ありがとうございます。
ほかはいかがでしょう。大体よろしいでしょうか。
秦野委員、どうぞ。

【秦野委員】

お話を聞いていると、非常に盛り上がったというようなことなので、さすがに次回が5月とか6月だと、かなり空いてしまうんですね。空いた分、振り返りとかも時間がかかるでしょうし、本当はこういったものというのは、大体2か月に1回ぐらいのペースで進めるのが、実現に向かっていく姿なのかなという気がしています。予算の関係もございまして、この辺りは例えば役所主導でやるのではなくて、ほかのこういったことがやれそうなステージを市民の方と協力して続けていくというような、そんな手法と組合せをされて続けられるのもいいんじゃないのかなと、そんなふうに思いました。

【会 長】

ありがとうございます。
私のほうも少し。やっぱり行政で予算が確定してからという、動き出しが下手したら6月、7月になると。やはり熱が冷めてしまわないうちに連続してやるということが非常に大事で、極端なことを言えば、今回参加いただいた方が呼びかけて非公式にでもいいから、議論を継続してやるという仕組みができないかどうかと。多分、役所としての対応みたいなやつは、会場を貸すくらいの話で、予算がなくてもできるのではないかと。その辺りが一つ非常に大事かなと思うのと、もう一つは、多分、先ほど和田委員、あるいは小柳委員、あるいは三木委員からありましたけれども、単なるアイデアで終わるのではなくて、次の段階は実行をするという、あるいは実行するための企画書までつくって、これは前回も少しリーディングプロジェクトでそういう市民サイドからこんな活動をしたいので企画書を出して、それを行政のほうで審査して、助成して、行動に移せるという、そういう一歩を踏み出すという目標を掲げてワークショップをやっていたきたいなど。

そうすると、この東部振興構想の「チャレンジし続けるまち」という、これがまさに目に見えた形で動いていくという。それをぜひとも工夫をしながら、間を空けずに展開していただければと思いますが、これはお願いといいますか、提言というような形でございまして、御回答はなくてもいいと思いますが、そんな形でぜひとも工夫をしていただければというふうに思っております。

よろしいでしょうか。秦野委員、多分同じような話だと思っております。

【秦野委員】

はい、結構です。

【和田委員】

まさに会長がおっしゃることで、進め方のヒントとして、民間とうまくやるということが重要なことだと思っていて、官民連携する。官がある程度進めてもらったものを、今度は民を巻き込んでいくということが結構重要なこと。今日も青年会議所や商工会議所の方も来られていますので、そういう地域の経営者の方にファシリテートしていただくとか。

例えば、青年会議所の委員会で何かやっていただくとか、何かそういうふうな連携をして、継続させていく。そこを官がフォローするという形にしたほうが、概して進みやすいかなと思いますので、そういったところの連携ができれば僕はいいのではないかと思います。

【会 長】

そうですね。

あくまでも役所のすることというのは、場を設定したらいいだけで、極端なことを言うんですね。その土俵の上でプレーをしていただける方々は、プレーヤーとして自由にいろんな議論をしながら展開をしていくと、そういうことにつながっていけばいいなと思います。

小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】

僕は、ぶどう農家やそういうところの関係を中心に議論させていただきましたが、本来そこにそういう立場の方がいらっしやると、生産者と消費者と、あるいは農協関係、そういう形で検討や議論ができると、一歩も二歩も進むと思います。

先ほど和田委員がおっしゃったように、後継者を望んでいないというようなところもあるかもしれません。それはそれとして、生産者の声としてしっかり受け止めていく。消費者としては、何を求めているかということで、両方で連携が取れるような話が、はたしてワークショップでできるのかなというふうにちょっと思っていました。

ただ、今後の案が出ていますけど、その中の具体的なアクションの中で僕はやっていかれるのかなと、そんな思いがありましたけれども。それができればもっとプラスになると思います。以上です。

【会 長】

会議室の中での議論ではなくて、例えば極端なことを言えば生産者のところを訪ねて行って、そこで議論をします。生産者の方にワークショップに参加してくれというよりも、ワークショップのメンバーが、チームによってはそういう生産者のところに行って、意見交換しながら具体的なことを展開していくということも考えられますので、いろんな展開論を考えられますから、あまりワークショップ＝会議室でポストイットカードを持って何かをまとめていくという、そういう形だけじゃない。実行に一歩でも二歩でも踏み出せるという形の工夫をしていただければと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

ワークショップに関してはよろしいでしょうか。せつかくの非常に大きな芽ですので、この芽を枯らさないように、大きく育てていただければと思います。よろしくお願ひします。

ありがとうございました。

それでは、議事の(2)「第4回審議会の振り返りについて」ということで議論を進めてまいります。

事務局から説明をお願いしたいと思います。

【事務局】

それでは、第4回審議会の振り返りについて説明をさせていただきます。

資料3を御覧ください。

前回いただいた意見などについては、非常に多岐にわたっているものでしたので、今回大きく4つに分類して記載させていただきました。

順番に、東部振興構想（素案）に対するもの、リーディングプロジェクトのイメージに対するもの、その他、情報提供や行政への要望などに関するもの、そして全般にわたる内容のものをまとめております。

では、資料に沿って振り返ります。

まず、東部振興構想（素案）に対する発言・意見です。

番号の1と2ですが、まちづくり5原則の一体性及びまちの将来像に、企業や産業が見えるとよいとの意見がありましたので、それぞれ反映をさせていただきました。

なお、この東部振興構想（案）への反映については、後の議題で、改めて反映したページを御覧いただきながら御確認いただく予定となっております。

次に、3番では風水害などに対する備え、危機管理についての言及がありましたので、ハザードマップを追加するなどの反映をさせていただきました。

4番ですが、産学官民の連携について、郵便局など民ではあるが公共的な団体等との連携も進んでおり、連携先として記載してはというお話がありましたが、対応方法にあるとおおり、より多くの関係者と連携を図っていきたいため、具体的な団体名等は記載しませんでした。今後、プラットフォームの構築に関し、連携先を見える化していきたいと考えております。

続いて、5番から7番では、KPI及び参考指標についての御意見をいただき、KPIにつきましては、お示ししていなかった目標値を設定しております。また、参考指標の「交流」の部分では、桃花台まつりの参加者数を置いておりましたが、こちらについても、御意見に基づき修正し、別の指標を設定しております。

同じく参考指標について、7番では「戸建て住宅の空き家数」への御意見があり、現実として空き家はなかなか減らない、空き家に対してどうするのが大切という点から、空き家に対する対処件数であったり、空き家の流通件数を指標としてはという内容でございましたが、こちらについては、現在も市民団体による発生抑制の取組が行われており、その成果がどう空き家数に表れるのか、また、今後力を入れていくべき流通の部分など、空き家に関する全般を把握したいことから、指標自体は「戸建て住宅の空き家数」のままとしております。

ただし、指標の目指す方向については、右下方向への矢印で、減らす方向としておりましたが、現実的ではないという御意見があり、また、小牧市で策定しております空家等対策計画においても、空き家については、増加抑制を図るとしていることから、そちらとも整合を図り、矢印の向きを修正しております。

次に、8番では名古屋コーチン発祥の地として池之内という地名が分かるようにという御意見がありましたので、追記のほうをさせていただきました。

また、ページをまたぎますが、9番、10番において、道路網の整備について及び大草地区の一部では廃棄物中間処理施設の建設などにより、神屋味美線がダンプ街道となってしまったとの御発言がありましたので、それぞれ、現状・課題として追記いたしました。

続いて、11番では分譲マンションや賃貸などの空き部屋の状況も重要なポイントになるので、指標に置いてはという御意見がありました。

これにつきましては、先ほど7番でも触れました、参考指標の「戸建て住宅の空き家数」に関連

しますが、指標としては把握可能な数値にする必要がありますので、現在把握できております「戸建て住宅の空き家数」のままとしますが、空き部屋についても注視していくことが大切とされますので、該当する説明の部分に追記をさせていただきました。

次に、12番では取組方針が多いので、住民にアンケートを取って、一番進めてほしいことから実現してはどうかという御意見がありました。

現在、御議論いただいております東部振興構想では「住民主体のまちづくり」、この審議会でも「ゲストからホストへ」というお話があったかと思いますが、住民の方々が自分事として取り組むまちづくりにとって何が必要なのか、何がしたいのかといったニーズなどを把握していくことは重要であると思われるので、必要に応じアンケートの実施など、努めてまいりたいと考えております。

構想の素案についての御意見の最後になりますが、13番、14番では、農家数や生産額などのデータ、関連法規など行政の役割についての御意見がありましたので、それぞれ追記のほうをさせていただきました。

続いて、リーディングプロジェクトのイメージに対する発言・意見です。

まず、1番から4番では、「ぶどう農家が7軒と減ってきている。地元の消費者と生産者がつながり、意見交換など交流していく必要がある。」「地域協議会で外国籍の中学生との座談会を開催した。多文化共生を進めるため、こうした活動を続けていきたい。」「桃でつながるプロジェクトでは、生産者ベースだけでなく、学校教育など市民ベースでつながる視点を追加できると、さらに広がりが見えてくる。」「青年会議所では、飲食店、事業主、学生などと連携した事業を検討しており、桃でつながるプロジェクトなど連携していきたい。」という御意見をいただきましたので、今後、それぞれ検討していきたいと考えております。

次ページになりますが、5番では、「現在手続が進められているハイウェイオアシスについて、東部のまちづくりにどう生かしていくか」という御発言がありました。

これにつきましては、今後、建設が進んでいく上で、検討・調整を進めていきたいと考えております。

最後に6番では、「住みたいと思えるプランがない。訪れる人は増えるかもしれないが、魅力が持てれば住んでくれる人が増えるというのは違う気がする」との御意見もありました。

実際に地域に居住されている目線での御発言であり、大変率直なお声だと思います。なかなかこれというものをお示しできない歯がゆさがありますが、今後、住民、事業者、教育機関、行政など東部地域に関係する人が連携し、支え合うまちづくりを進めていくことで、住みたい、住みたいと思ってもらえる地域にしていきたいと思っています。

続いて、その他、情報提供・行政への要望といった御発言ですが、「ハイウェイオアシスは、多くの雇用・来場者を生む想定であり、若い方の来訪も期待できる。農産物の産直などもできるようにしていく予定。」「池之内にある名古屋コーチン発祥の地を訪れてもらえるようPR体制を整えていくべき。」「それから東部の現状や課題をしっかりと把握するためにも、東部まちづくり推進室を東部市民センター内に移してはどうか。」「老人施設が不足しており、市の施設としての設置を検討してほしい。」というもの。

また、全般に関することといたしまして、「産業基盤が身近にあると、職住近接のまちができ、まちづくりに参画してくれる人が増える可能性も広がる。新しいビジネスの創出では、多様な働き方のできる環境をつくり出すことにもつながる。結果、訪れる人も増え、住みやすい環境にもつな

がり、若い人たちにも住みたいまちになると思う。また、行政が何をしてくれるかではなく、住民が行政を動かすためにも、民間の力、市民の力でまちづくりを行うことが重要だと思う。」、それから、「様々な意見があり、構想に書ける、書けないはあると思うが、地域課題について共通認識をしておくことは大変重要。」という御発言があり、最後に増田会長からは、「次回はパブリックコメント案について議論を。」と締めくくりをいただきました。

以上で、第4回審議会の振り返りについての説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【会 長】

ありがとうございました。

いかがでしょうか。

変更箇所については、むしろ案のほうでお示しいただきながら、議論ができようかと思っておりますけれども、それ以外の点で何かございますでしょうか。

私のほうから1点だけ。このリーディングプロジェクトのアイデアといいますか、イメージに対する発言・意見が結構出されておりますけれども、リーディングプロジェクトに関しては、今年度内に一度議論する場があると考えておいていいでしょうかね。いかがでしょうか。

【事務局】

そのように今考えておるところでございます。

【会 長】

そうですね。次回に、パブリックコメントの結果と、もう一つはリーディングプロジェクトをもう一度議論をする時間を持つということでございますので、よろしくお願いいたしますと思います。

それでは、議題の3番、「東部振興構想（案）について」。

今日はパブリックコメントの原案確認でございますので、少し新旧対照表も使いながら御説明をしていただければと思いますので、よろしくお願いいたしますと思います。

【事務局】

それでは、東部振興構想（案）について説明をさせていただきます。

資料4及び資料5を御覧いただきたいと思います。

先ほどの議題2で触れました構想の素案に対する御意見等を反映したもののほか、事務局で整理し直した内容もあり、前回お示ししました素案からの修正箇所が多数ありますので、資料4の構想全体の案には、修正箇所が分かるよう黄色の色をつけさせていただきました。

また、資料5につきましては、その修正箇所ごとに、修正前・修正後を載せた新旧対照表となっております。

この議題3の説明につきましては、資料4をめくりながら、主に修正箇所について御説明させていただきますので、気になる箇所がありましたら、適宜、資料5の新旧対照表と照らし合わせながら御確認いただければと思います。

では、資料4にお戻りいただきまして、まず13ページをお開きください。

ここには、桃花台ニュータウンと既存集落ごとの将来人口見通しのグラフを載せておりますが、

東部地域全体を示すものがございませんでしたので、前のページとなりますが、12ページに2地区を合算しました東部地域全体の推計グラフを追加しました。それに併せまして、上の段の説明文についても修正を加えさせていただきました。

次に、14ページを御覧ください。

先ほどの振り返りにもありましたが、産業廃棄物中間処理施設の立地等による影響について、土地利用に関する現状と課題に加筆させていただきました。

続きまして、15から16ページにかけてでございますが、「水などに対する危機意識」という御意見に沿いまして、ハザードマップなどを追加して、説明でも災害に対する備えについて触れております。

次に、17ページでございますが、空き家の状況についての資料に、空き家の分布状況の資料を追加させていただきました。

次に、18ページでございます。

18ページの上段では、インフラのうち道路の整備状況を載せておりますが、整備が進んでいない箇所が存在するなどの現況について加筆をさせていただきました。

それから、1ページ飛びまして、20、21ページをお願いいたします。

こちらは、御意見のありました農業に関するデータ、農家数ですとか農業出荷額についての資料を追加させていただきました。

また、22ページでは、前回、職住近接のお話もありましたが、事業所に関するデータがありませんでしたので追加させていただきました。

次に、23ページ、24ページを御覧ください。

こちらは、将来像とヴィジョンの章が始まる部分でございますが、これから定めようとしている東部地域の計画と小牧市全体のヴィジョンとのつながりが分かるよう、市民憲章及びまちづくり推進計画についての記載を追加させていただきました。

次のページの25ページですが、まちづくり5原則のうち一体性の部分で、農業や商工業との連携が見えるようにという御意見がありましたので、その御意見に沿いまして、表記を変更させていただきました。

続きまして、26ページでございます。

まちの将来像についてでございますが、東部地域が目指すものといいたしまして、産業についても重要なキーであるという御意見がありましたので、副題の部分でございますが、「豊かな自然、快適な住環境と多様な産業が共存するまちづくり」と修正させていただきました。

また、将来像に込めた背景に関する説明につきましても、東部地域の特徴などがより見えるよう加筆させていただきました。

続きまして、27、28ページをお願いいたします。

まず、27ページの上段では、前ページの将来像から、次のヴィジョンにどうつながるのか。東部地域のヴィジョンは、まちづくりの中心となる「人」に焦点を当てたものであることが伝わるよう、説明を入れさせていただきました。

それから、27、28ページにある3つのヴィジョンについて、それぞれ末尾が「環境の整備」や「魅力の創造」のように「行うこと」という表記をしていましたが、ヴィジョンという呼称からは、姿を表すのが本来であろうと思われましたので、それぞれの末尾を「まち」と置き換えさせていただきました。

また、28ページの下段になりますが、ヴィジョン3の説明部分につきましては、大きな変更はありませんが、市が進める子育て支援などに関する記述を加筆させていただきました。

次に、29、30ページをお願いいたします。

こちらでは、基盤の部分で、「行政の役割について触れたほうがよい」という御意見に沿いまして、29ページの色つきの部分を加筆したこと、また、30ページの間支援組織の活用・育成のページでは、書きぶりについて、事務局で精査し、修正をさせていただきました。

少しページが飛びますが、46ページをお願いいたします。

こちらでは、実施している取組として載せております桃の新品種「こまきゴールド」と名古屋コーチンの発祥の場所について、それぞれ「上末」、「池之内」という地名を入れさせていただきました。

続きまして、47ページをお願いいたします。

中段の「1. 既存住宅を活用した新たな住宅供給」の部分でございますが、先回の振り返りにありましたとおり、住宅については戸建てだけではなく、マンション・アパートなどの空き部屋の状況もポイントであるという御意見に沿いまして、説明に「空き部屋」を追加させていただきました。

その下の「2. 安全・安心な住環境の整備」の部分では、同じく御意見のありました「危機意識を持つこと」を追記させていただきました。

続きまして48ページをお願いいたします。

こちらでは、上段の実施している取組のうち、空き家の予防活動を実施されております「桃花台を考える会」の顔が見えるよう、市民団体の名称を入れさせていただきました。

次は、少し飛びまして、54ページをお願いいたします。

こちらは、下段のK P Iの設定の部分でございますが、前回の審議会ではこの目標値についてお示しできませんでしたが、東部地域の生産年齢人口の割合について、東部振興構想の計画期間の中間に当たります令和8年度の目標値を54%、計画最終年度の令和13年度においては目標値を50.7%といたしました。

この目標値につきましては、先ほどの説明の中で御覧いただきました、12ページの東部地域の将来人口の見通しのグラフに示されました推計値に対し、令和8年度は1%を、令和13年度は2%を上昇させた値を設定いたしました。

5年後と10年後での上昇割合が異なる理由といたしまして、最初の5年で1%上昇させるために努力した頑張りを継続しますと、10年後ではおよそ2%程度の上昇率に相当することから、このような設定をさせていただきました。

続きまして、55ページをお願いいたします。

こちらは、K P Iの達成に向けたヴィジョンごとの参考指標でございますが、まずヴィジョン1の「交流」に関する参考指標につきまして、当初は「桃花台まつりの参加者数」としておりましたが、「プラットフォームによる交流イベントの回数」に変更をさせていただきました。

すみません、ここで1点、訂正をお願いしたいのですが、こちらの「交流」の列の一番右側の備考の欄になりますが、「市民意識調査の結果を東部地域に抜粋して算出します」と記載しておりますが、こちらは誤りですので、削除をお願いしたいと思います。

次に、一番下のヴィジョン3のうち、「住まい」に関する参考指標でございます。

前回の振り返りの際にも説明をさせていただきました理由により、指標自体については「戸建て住宅の空き家数」のままとしていますが、目指す方向の矢印といたしましては、空き家が増えるの

を抑制していくという意味合いで横ばいの方向に変更させていただきました。

資料の説明につきましては以上でございますが、ここで今後の予定について御説明をさせていただきます。

東部振興構想の案につきましては、この説明の後、御議論いただきまして、その後この案に対して広く意見を募集いたしますパブリックコメントを実施していきたいと考えております。パブリックコメントの期間につきましては年明けになります。令和4年1月17日（月）から2月15日（火）の間を予定しております。

以上で、議題3.「東部振興構想（案）について」の説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【会 長】

どうもありがとうございました。

年明けの1月17日からパブリックコメントをかけるための原案という形で御説明をいただきました。

どこからでも結構ですので、お気づきの点、あるいはこういう発言をしたことがうまく反映されていないとか、あるいはもしも抜けているところがあれば、こういうところが補強すべきであるとかいうようなことがございましたら、随時いただければと思います。

古池委員どうぞ。

【古池委員】

2点ほどですけど、1点目は、プロジェクトはどこへ行ったのかなと思ったら、先ほど会長が言われたように別枠で議論をされるということで、それはそれで理解はできました。しかしパブリックコメントにかけるときにイメージしやすいのはむしろプロジェクトで、スケジュールが決まっていて、それはもう無理だということなら、それはそれであれなのですが、なかなか市民の方に理念ベースで意見をいただくのは、どこのパブリックコメントも結構苦労して、なかなか出ないので、せっかく先回良い形でプロジェクトを出して、それを出さないのはちょっともったいないなということですが、それは無理ならいいです。

それから、もう1点は、せっかくおまとめいただいているいろいろ言葉をたくさんちりばめていただいたので、逆にちょっと何が伝えたいのかよく分からんなところもあって、これも今さらということであれば特にあれですが、例えば25、26ページのまちづくり5原則と将来像。これが何か別途語られているみたいなのところがあって、ちょっと気になります。例えばこれは、将来像で持続的発展とかSDGsとか、あちこちで持続性というのが出ているのであれば、まちづくり5原則でやっぱり持続性が要るだろうという、そういうふうに連動して語っていかないと何を伝えたいのかちょっと分かりにくいなということもありますし、25ページの下から2つ目は同じことを繰り返しているのほとんど意味がないというふうに思って、むしろ私はこれ、チャレンジをサポートする、一番大事なのは寛容性だと思います。要するに、潰さない、温かく見守るといふ。子供たちの意見であっても、他から来られる人であっても、地域として、そのチャレンジをしっかりサポートするためには、やはり寛容性というのが非常に大事で、結局そういうことを考えると、将来像で何を訴えかけたいかということシンプルに言えば、多様な資源を生かした様々なチャレンジを温かく見守るといふ、それによって持続的な発展ができる、多分そういうことだろうと思うのですが、それ

であれば、まちづくり5原則は、今さら無理であればこれで仕方がないのですが、25と26ページの連動性がよく見えないので、言葉だけたくさん独立して出てくるので、分かりづらい状態になって、パブリックコメントと言われても困るのではないのかなという気がしています。

その辺りはうまく整理して、将来像のストーリーを組み立てていったほうが分かりやすいのではないかと。感想なので、今さら手後れなら、それはよろしいですが。以上です。

【会 長】

1つは、前から出ていたリーディングプロジェクトの扱いですけれども、事務局から、何か御回答ございますでしょうか。いかがでしょう。

【事務局】

リーディングプロジェクトにつきまして、前回、東部振興構想とアクションプランとリーディングプロジェクトの関係の資料を配付させていただきましたとおり、別仕立てという形で策定することを考えております。リーディングプロジェクトにつきましては3か年のアクションプランという形の中で取組をさせていただきたいと考えております。

【会 長】

パブリックコメントにはかけないということによろしいですね。ただし、この会としては、前回で尻切れとんぼになっていますので、年度末の会議にはそれはきっちりと議論できる場があるというふうに理解してよろしいですか。

【事務局】

はい、そうです。

【会 長】

分かりました。ありがとうございます。

あとは、少し根本的な話で今さらと私は思うのですが、25、26ページのところ、かなり精査してきたつもりですが、特に26ページの文言が少し25ページと連動していないのではないかと御指摘ですけれども、その辺いかがでしょう。多分、いろんなことをいっぱい書いていただいているので、かえって見えなくなったような感じです。例えば、26ページの下段2つぐらい、何々のような特徴を有する東部地域全体が持続的に発展し続けるまちとしていくには、自然、住環境、産業が共存し、東部地域が一体となり、地域住民、事業者、教育機関、行政、その他関係者が連携・協力し、夢と希望を持って、新たなまちづくりへチャレンジしていくことが重要だとか、あるいはチャレンジし続けるまちだというふうな、ここぐらいだけでもいいかと。ひょっとしたら、下2つぐらいの段落のほうがかえってインパクトが強いかもかもしれないと。上は、結構東部の特徴というのをたくさん書いていただいているのですが、ひょっとしたら、この豊かな自然、多様な産業、快適な住環境、「人がつながり、支え合い、チャレンジし続けるまち」というこの図を倍ぐらいの大きさにして、下の2段ぐらいをバチッと書くほうが、分かりやすいかもしれないということかなというふうに思います。

古池委員、いかがでしょう。

【古池委員】

そうですね。めり張りのつけ方は編集上、いろいろテクニックがあつて、箱でくくるとか、何か文字を変えるとか、1行空けてバーンと出すとか。要は、パブリックコメントをいただくときに何を訴えかけたいかというこの会のメッセージをバシッと出さないと、多分これを全部しっかりと読むのはげんなりするので読まなくて、伝えたいことをシンプルに伝えるやり方としてはあんまりよくないと思いますので、今会長のおっしゃられたように、そこの部分だけちょっと強調するような編集上のやり方で大分見え方も違うなと思いました。

【会 長】

そうですね。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

大塚委員、どうぞ。

【大塚委員】

今のところに関連してなんですが、私も26ページのせつかくの図がちょっと小さくて中に書かれている文字が読めないのです、逆に言えば、この図を見れば大体何が言いたいのか分かるというぐらいに大きくしていただいたらいいのではないかということと、25ページのまちづくり5原則というのは、この審議会をやる前の戦略会議の中で議論してきたもので、これまでこの5原則を前提条件としてずっと進めてきていることから、これはもう動かし難いものではないかと思います。

あと、もう一つ確認ですが、今のちょうど26ページのところが「3、東部地域の将来像」として、一番上に枠で囲って、その将来像が書かれているのですが、次の27ページの一番上にも同じものがまた出てきます。これって、何か意味があるのでしょうか。ただ、消し忘れていただけなのか、そこがちょっと気になりました。以上です。

【会 長】

分かりました。ありがとうございます。

ほか、いかがですか。

和田委員、どうぞ。

【和田委員】

皆さんおっしゃるように、ビジョンとか将来像とかというのが結構多用されて、都市ビジョンとかも出てきて、すごくたくさんあり過ぎて分からないというところだと思います。会社とかでも経営理念とかビジョンとか、いっぱい並べているところって、結局壁にかかっているだけで誰も覚えていないみたいな状況になるのですが、何かそのような感じ、匂いがぷんぷんして、耳障りのいい言葉が並んじやっているかなあと思うので、もうちょっとシンプルにというか、会社でいうと経営理念、ミッション、ビジョンみたいな、あとクレドみたいな感じぐらいでまとめて、それをこの取組方針で細かくやっているのです、ここはあまり深くいかななくていいというか、分かりやすくしたほうがいいかなというふうには思います。

だから、ビジョンであったらビジョンでいいし、都市ビジョンとビジョンの何が違うのかとかが、ちょっと分かりにくいので、できればシンプルにしたほうがいいかなあというのが1つ。

あと、一番大事なのは計画の進め方のところかなと僕は思っていて、問題を解決するために、どうやって具体的に進めていくかということはどうしても考えちゃうので、計画の進め方のところのこの2ページ、これだけじっくりだと多分具体的に進められないと思います。どういう部署がどういうふう持ってとか、言えるところは言っておいたほうがいいかなと。5年ごとに検証しますというだけしか書いていない。KPIを回して5年ごとに検証します、KPIはこういうことです。それで、これをどうやって回すんですかというのが本質的に入っているほうが、より僕はいいんじゃないかなと。大事なところが結構ここかなと思っています。

【会 長】

ありがとうございます。
ほか、いかがでしょうか。
中川委員、どうぞ。

【中川委員】

お願いします。
これをいただきまして、じっくり読ませていただきました。1ページごとに、うん、なるほどなるほどという感覚で読んでまいりました。しかしながら、最終的にこれは一体いつやるのか、百年の計画かなという感じがいたしました。ここに書いていますのは2022年から2031年、僅か10年の間の構想というにしては、あまりにもちょっと総花といいますか、間口が広過ぎて、冷めた目で見ますと、ごもつともなことだけれども、本当にこれができるのか、実現可能なのか、一体誰がやるのか、いつまでで本当にやれるのかというふうな疑問が読まれる方に今後出てくるのではないかなと。そういった面で、もう少し的を絞り込んで進めていくのも一方法ではないかという気がいたしました。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。
ほか、いかがでしょうか。
深堀委員、どうぞ。

【深堀委員】

ちょっと細かい話ですけれども、29ページにプラットフォームのイメージ図があるのですが、上と下と色分けしたほうがいいと思いました。みんなこれ、同じ色だから。下は「プラスαのコミュニティ」ということで、上の既存のものと同色分けしたほうがいいと感じます。

【会 長】

すみません、ちょっとフォローできなかつたので、何ページ目ですか。

【深堀委員】

29ページです。
ここにプラットフォームのイメージ図がありますが、上の部分と下の部分は別の団体というか、

そういう取扱いですよ、ここの中では。それで上と下と色分けしたらどうですかという意見です。

【会 長】

既存のコミュニティというのとプラスαのコミュニティというのを色分けしたほうが分かりやすいのではないかとということですか。

【深堀委員】

そうです。このままだとずうっと同じような位置づけの団体みたいに見られるのではないかと
う感じがします。

【会 長】

分かりました。ありがとうございます。
ほか、いかがでしょうか。
原委員、どうぞ。

【原委員】

1つ、これはお願いになりますけれども、この振興構想というのは、これからの東部地域の将来をどうしようという絵を描いているわけですから、その描いた絵をじゃあどうやって実現していくのかというのは、この構想全体の文章を見ていただくと文末にそれが出てきます。それは行政の、あるいは市民の姿勢としてこうするんだということにつながるんだと思うんですけども、例えば具体的に挙げますと、こうこうとずうっと並べてきて、～ということを構築する、あるいは取り組む、環境を整備する。こういうフレーズがこの中にたくさん出てきます。その中で、最も積極的な姿勢として出てくる言葉は「支援する」なんですね。

だけど、僕はこれからの東部地域を、先回も言いましたけど、小牧の中で一番開発が遅れている東部地域をつくり上げていこうとするには、支援ではまだ弱い。僕は、ここはというときには「主導する」、行政が主導するぐらいの言葉でもって結ばないとアピールが弱いのではないかと。それを1つ考えてもらいたいなと思っています。

【会 長】

ありがとうございます。
ほか、いかがでしょうか。
田中委員、どうぞ。

【田中委員】

私も、やっぱりこの計画をいただいてから、進め方、先ほどから話題になっていますけれども、今、原委員もおっしゃられましたけれども、じゃあ行政主導でいいのかというところですが、やっぱりトータルコーディネーターというのが1つ必要なのかなというふうには思っていました。ただ、それを行政に委ねてもというところはあるので、今日、ワークショップの活用という部分で、冒頭でいろんな話が出てきております。こういったワークショップの中から具体的な実践をそれぞれのテーマごとで進めていくというような手法がこのまちづくりという部分には非常にマッチす

るのではないかというようなイメージもありますので、できれば1つ、こういったものを計画の進め方の中の見玉として取り入れながらやっていくのもありかなあというふうに思っています。以上でございます。

【会 長】

ありがとうございます。

一度この辺りで少し会長としての提案といいますか、御検討いただきたいというところが、全体の2章まで、要するに課題整理のところの22ページまでは現状認識ですからいいと思うんです。23、24ページ、これを入れていただいた、これは小牧市全体のヴィジョンですよ。これを入れていただいたことによって、反対に東部地域が沈んでしまって見えなくなったということです。極端なことを言うと、この市全体のヴィジョンはむしろ参考資料で下げた方がいいのではないかと。要するに小牧市全体の話を議論しているのではなくて、あくまでも東部地域というような、このヴィジョンと整合しているということだけが確認できたらいいわけで、したがってこれは下げたほうが、先ほども将来像のヴィジョンというので、都市ヴィジョンを見たら東部地域の話なのか、市全体の話なのか、非常に混乱を招くということで、これは下げてもいいのではないかというのが1つです。

その次に、まちづくりの5原則と将来像というのがあって、ヴィジョンの中に入っていくと体系が分からなくて、その体系が最後にやっとV章のところに出てきます。だから、むしろこの体系図がダイレクトに前に据えるほうが見やすいだろうと。その細かいことを見れば、その次のページから見ていったら細かいことが書いてあるということで、この体系図の位置は、5原則があって、将来像があって、その次のページに51、52ページを持ってきて、この中を見ようと思ったら細かく中身が見られるという形にしたら把握しやすいのではないかと思います。多分、概要版をつくらしたら、そんな構成になって、細かいやつが出てくるよりも、むしろこの51、52ページあたりが概要版で出てきていいはずだし、25ページの5原則と26ページの下図が概要版として本当は出てきて、その次に体系の51、52ページが概要版として出てくるという、そんな構成だと思います。ちょっとその辺りは編集の工夫で少し見やすくなるのではないかなと思います。

同じことが書いてありますが、極端なことを言えば、51と52ページのところに大事なことは全部書かれています。まちづくりの5原則があって、将来像があって、ヴィジョンがあって、それを支える取組方針まで書かれていますので、極端なことを言ったら、市民の方々には51、52ページを見てもらったら全体が分かるという。ちょっとそういう編集も1つはお願いしたいと思います。

もう一つは、これは事務局と大分御相談、あるいは市長も含めて御相談しないといけないと思いますが、53ページ目、計画の進め方の部分です。私は事務局と少し御相談させてもらっているのもう分かるのですが、前回リーディングプロジェクトの議論をして、かなり見える姿になったと。それが今日出てこないの、肩透かしみたいな形で非常に一般論みたいなヴィジョンに見えてしまって、どうやって本当に計画を進めていくのかということが見えなくなってしまったというのが非常に大きな皆さん方の御指摘ですので、リーディングプロジェクト全部は書けないと思いますが、アクションプランはこういうつくり方をして、こういう3年の具体的な取組であるリーディングプロジェクトを設定して、こうやって進めていくんですよと。リーディングプロジェクトの中身までは、まだ公表できないと思います。もう一回、3月に議論したらいいと思いますが、リーディングプロジェクトみたいなやつを4つないし、5つ設定して、この3年間でどうしてもやりますみたい

なやつをこんな形で進めるんですという具体的な進め方をここに少し補強すると、「非常に一般的なやり方で、本当にこれを見てもどうやって進んでいくのか分かりません」というふうな、今日大分皆さん方から御指摘いただいたその辺りは改善されて、今まで議論してきたところをかなり精査、反映できるのかなと思うんですけどね。

その辺、即座に事務局、答えというのは難しいかもしれませんが、いかがでしょう。何か今言ったような少し編集の方針と少し補強すべき点ということに対して、何か御答弁ございますかね。いかがでしょう。

深堀委員、どうぞ。

【深堀委員】

私もちょっと後で発言しようと思いましたが、V章をやっぱり前に持ってこないと一般の人はちょっと分かりにくいと思われれます。先ほど説明にもあったように、これを参考にして、分からないところを次のページ以降で探してみて内容を見るという。

それから、53ページの話ですけれども、PDCAだけ、ぼっと書いてある。これは一般の人はあまりぴんとこないですよ。だから、先ほどおっしゃられたようにリーディングプロジェクト、こちらのほうの4ページか何かの図を使われたほうがまだいいのではないかという感じがします。PDCAは、もうほとんど一般の人はあまりぴんとこない話だと思いますのでということなんです。

【会長】

ありがとうございます。

落合委員どうぞ。

【落合委員】

桃花台の開発というもののひとつに、ガイドウェイシステムの新交通がありました。新交通は、相当将来的にも有効な交通手段にもかかわらず、赤字になった途端に潰してしまったというような感じ。しかも廃線後に残ったインフラをきちっと壊しておこうと思うと相当事業費もかかると。いわゆる東部地域の開発に対する負の遺産として、多大なお金のかかる事業が残って、これから大震災が来れば、いつ壊れるのかなあというような状況で宙ぶらりんになっておるわけですね。

そのことがここへ一言も、負の遺産というか、計画に与える影響も何も出てなくてね。今言える中で、多少こういう新交通は失敗とは言わないにしても、そういう計画から頓挫したいろんなものがあって、反省点みたいなものが出てきて、それでもなおかつ新交通自体が有効活用されていけばいいですけど、これは壊しちゃうという話だもんで、インフラの有効活用という段にも上がってこないということになると、やっぱり一言、新交通のまとめとは言わないにしても、こういう事業があって、こういう結果だったよということは何か検証しておかないと、何もない中にずうっと計画ができたみたいですけども、もう全然違うわけですね。

今、あれが残っておれば、例えば無人の車を走らせたり、いろんなものができるわけだわね。それも部分的に壊しかけたので、それならばこういう計画の中に一言どこかの位置に入れておくことによって、逆にスパイスになって、むしろ計画が生きてくるということも思いますので、できたら今こういう計画をつくる人の気持ちの中に、やらなくちゃいかん仕事として、何か一言残しておく必要があると私は思いますので。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。

それも含めて、今までの議論の中でいかがでしょうか。

それともう1点、私のほうからの御提示というのは、23、24ページにある、小牧市全体のビジョンである、都市ビジョン1、2、3。これをもしも入れるとすれば、もっと前のほうに構想の位置づけとして、市の上位計画と整合していますよというのが3ページ目にあります。要するに、小牧市全体のまちづくりの話があって、それと整合する形で東部のビジョンをつくるということですから、もしも入れるとすればこの辺りに入れるというので整合してくると思います。

今書かれている辺りは、どちらかという課題認識の辺りですから、むしろ皆さん方に見てほしいのは将来像とビジョンのところと取組というところを見てほしいという形になるのかと思いますので。もう一言、付け加えておきます。

ほか、いかがでしょうか。

ちょっと事務局、途中で一度議論を。

【事務局】

今、いろいろ御意見をいただきました。一度、整理させていただきまして、対応可能な部分に訂正のほうを加えたいと思っております。

【会 長】

分かりました。ありがとうございます。

もう一点、今まで出ていませんでしたが、交通基盤に対しては少し課題があるということを書きいただきましたけど、廃線になっている新交通に触れていなかったと。それについて、今日新たな提案をさせていただいていますので、それはどう取り扱いましょうか。課題認識みたいな辺りについては入れておくべきだと思いますけれども、いかがでしょうか。

【事務局】

課題の辺りのところで、一度検討をさせていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

【会 長】

そうですね。分かりました。ありがとうございます。

あとは、図の見にくいところに関して御提案いただいているものについては、少し編集で工夫をさせていただくということでお願ひします。

ほか、いかがでしょうか。

坪井委員、どうぞ。

【坪井委員】

ちょっと細かい話もいいですか。

【会 長】

はい、結構です。

【坪井委員】

17ページに空き家の話がございます。この会が始まったときに、桃花台は高齢者が多くて空き家が多いという洗脳されたような感じで話が進んでいるのですけれども、実際に空き家の戸数というよりも率からいきますと、東部地域が多いかというとなんかその前提がちょっと違うような気がするのです。戸数は166戸ということで一番多いのですけれども、率ですとちょっと違う状況みたいで

す。

したがって、ここでそうやって入れるのであれば、空き家の戸数だけじゃなくて、空き部屋とかそれも入れていかないとちょっと辻褄が合わなくなるんじゃないかなという気がします。

それから、ちょっと飛びますけれども、39ページのところで都市インフラの話がございます。この中で、インフラの有効活用というのがあるのですが、この会でもいろいろ議題になったんですが、桃花台ではなく、大草地区のほうで、例えばダンプ街道と言われていたところ。歩道がなかったり、道路が狭いとか、そういうような御意見もいろいろあったと思うんです。

ですから、そういったことも踏まえて都市インフラの有効活用だけではなくて、「整備」というのも入れていただきたいなあというふうに思います。

それから、47ページのところで、安全・安心な住環境の整備というのがございます。この中では、地域での防災訓練を引き続き進めるだとか、住民の方々にやってちょうだいよというお話ですが、やはり行政として、例えば河川だとか土砂災害が起こりそうな場所、そういった危険箇所の整備というのを進めますというように書いておかないと、目指しますとか検討しますというような先ほど原委員がおっしゃったような話で、もう少しやっぱり具体的なところまで含んで書いていただければなあと思います。以上でございます。

【会 長】

いかがでしょう。空き部屋の話については前回から議論があって、少し今の御指摘のあった47ページのところには空き家・空き部屋の流通促進というような形で、一応空き部屋の対策は書いていただいていますけど、統計のところにも空き部屋が入らないかということですけど、その1点目はいかがでしょう。

【事務局】

空き部屋につきましては、数値が把握できておりませんので、表のほうに記載するというところはちょっとできないところで、難しいと思われまして。

【会 長】

なかなか難しいということですね、統計上は。課題認識としては入れていただいていると。

もう1点は、インフラ関係の話が出たり入ったりしていますが、安全・安心に対する河川整備とか下水道整備とか、あとは既存集落の中での交通環境の改善とかいうこの辺り、どこまで触れておくのかという辺りに関しては事務局いかがでしょうか。すぐにお答えいただくというよりも、検討するというだけでもいいのですけど、いかがでしょうか。

【事務局】

一度、検討させていただきたいと思います。

【会 長】

分かりました。ありがとうございます。
お待たせしました、小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】

今まで議論されておる都市ヴィジョンですが、会長もおっしゃったように、それは既に小牧市まちづくり推進計画第1次基本計画でうたわれています。これがありまして、もう一つは都市計画マスタープランの中でも東部地域の関係でかなり今意見が出たようなことがうたわれています。そういうのをこの構想に全部入れてしまうと、もう大変だと思います。

僕は今都市計画マスタープランと両方持っていますが、ここにもきちんと書かれています。恐らく、この概要版で配布されているかと思います。都市計画マスタープランでは、東部の関係についてはかなり綿密に書かれています。ですから、それも全て入れていくということになると、上位計画等で記載しておりますので、特に道路の狭隘の部分についても解消していくというように書かれています。難しいことは分かりませんが、そういうものにもう書かれて推進されていくというふうに考えると、あまりごてごてと入れるのは大変だという気がします。

僕は地域によりましてそれぞれの活動をしてきた一人としては、やはり前回、大塚先生がおっしゃったように、自らの力をしっかりしないと、それで行政を動かしていくということをおっしゃった部分がありました。あれに僕は尽きるような気がします。だから、住民本位の、いかにこれをかみ砕いて推進していくかということがないといけないと思います。

つまり、上位計画等の関わりでしっかり書かれているので、そういうことはあまりここへ書き過ぎると分からなくなってしまうというような気がします。

【会 長】

はい、分かりました。ありがとうございました。

表紙のところにもあるし、将来像にも掲げている“人がつながり、支え合い、チャレンジし続けるまち”、これを具体的にどうやって実現するのですかということが見えるのが一番大事な話で、今御指摘いただいたように、全部網羅的に抜けているところはないかとかいうふうなことをやっていくよりも、これがどうやって本当に進んでいくのかということが見えたらかなり大きな進展であるというふうに思います。そのためには、少し計画の進め方の見せ方ですね。そこをうまく見せないと、チャレンジし続けるまちというのは具体的にどう見えるのか、どう進んでいくのかというのがちょっと見えにくいので、一番ちょっと頭が悩ましいなあと思っているのは、やっぱり53ページをどう書くかというのが1つは大きな今日の宿題かなあというふうに思いますけど。

秦野委員、どうぞ。

【秦野委員】

やっぱり53ページの話になると思いますが、結局ここに出てくるプラットフォームと、既に開催して議論されているまちづくりワークショップと、この審議会がどういうふうに絡み合いながら行くのかということをやちゃんと図で説明しなきゃいけないと思います。

あともう1点は、行政の役割と市民の役割と企業の役割をそれにかぶらせてちゃんと入れないと、結局どうしていいのかわからないという部分です。それもしっかりと進め方の中に言及する必要が

あるのかなと、そんなふうに思ったのが1つ。

あともう1点、K P Iの指標が出ていて、確かに基準年度から令和13年度にこういうふうな方向性となっていますけれども、この計画自体が10年ということで、多分その中間評価みたいなこともやるとすれば、やっぱり真ん中の5年たった後にどうあるべきなのかだとか、10年先にどうしていたいかだとか、何かその辺りの構想の修正に関する言及だとか、そういったことも必要なのではないのかなという気がしました。K P Iでは生産年齢人口割合が入っていて、何となくこの数値もどうしても進んでいくというか、何をやっても生産年齢人口が減っていくというような方向が出ていますけれども、やっぱり計画をつくって進めるに当たって、明確にこれだけの効果を期待したいというような、そんな形の数値をもう少し具体的に出してもいいのではないのかなと、そんな気がしました。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。

やはり今の53ページの辺りの議論だと思いますが、先ほども御指摘があったように「P D C Aと書いてもピンとこないね」というのを、もう少し具体的に見える形で少し説明をすると。

例えば、8年目のところでの目標設定をして、それをチェックしながらとかですね。単にP D C Aと書いてしまうと本当に一般論になってしまうので、具体的にこれをどう回すんですかということの説明するというのが1つと、もう一つ、ここで重要な御指摘がありまして、東部まちづくり審議会だけが取り上げられていますけど、やはりワークショップをして、それがプラットフォームにつながり、それが行動主体として育っていくという、そんなシナリオをここに少し書いておかないと、せっかく今日もいいワークショップの成果は出てきていて、すぐにでもまた来年度スタートしたいと、あるいはやりたいと、こんな形で取り組んでいきたいという芽を摘んでしまいますので、この辺りもここで書いたほうがいいですね。その辺の書き方を加えるというのが大きな課題かと思えますけど、いかがでしょうかね。

和田委員、どうぞ。

【和田委員】

53ページばかりの話であれですけど、事業を進めるときってやっぱりPMが必要かなと思っていて、プロジェクトマネジャーと言われる存在ですね。要は、誰が主体として責任を持ってこの事業を動かしていくかということが、やっぱり民間の経営から考えると重要で、その責任の所在がはっきりしていないと結局事業って回っていかない。P D C Aが回らないんです。仮説を立てて動かして、さらに検証してさらにもう一回動かしていくということを見ている人と動かしていく人と、具体的に計画を立てる人、それを実行していく人というようなプロジェクトマネジャー的な人が、これが市長なのか、まちづくり推進室なのか、もしくは外部から招聘して、民間から招聘してそういう人を据え付けるのかみたいな組織図的なところで、要はさっき言ったように民間の方、住民の方はどういう動きをしてほしい、その中でこういうチームをつくってほしいだったりとか、小牧市の企業の人たちはこんな動きをしてほしいだったりとか、決め打ちする。多分こういうのって失敗したらどうしよう問題があるので、小牧市だけじゃなくてほかの自治体の人もそうなんですけど、やっぱり議会から突っ込まれるとか、失敗したときのことがあるのでなかなか前に進んだ書き方はできないのは僕も重々承知していますが、今のこういう審議会の議論ってすごく僕は先進的だ

なあと、ほかの自治体を見ているも思っていますし、ここをせつかくなのでより具体的に書くというのが、まさに子供たちにチャレンジを進めるのであれば大人たちがチャレンジしていかないといけないのではないかと思いますので、ぜひそこは誰が責任を取ってどうやるかみたいところまで明確化して動かしていくと。

時間軸はもうちょっと早くしたほうがいいと思います。10年と言われると、僕も55歳になっちゃうので、そのときにどういう髪の毛になっているかも分からないですし、どういう状況になっているか分かりませんから、やっぱり大体3年ぐらいかなと。3年中間で6年とか、そういう計画の仕方をしていただければありがたいかなあとと思います。以上です。

【会 長】

ありがとうございます。
ほかいかがでしょうか。
渡邊委員、どうぞ。

【渡邊委員】

この資料（東部振興構想案）は、住民の方に配布等されるのでしょうか

【会 長】

いかがでしょう。どんな形で公表したり配布したりするかという御質問ですけど、いかがでしょうか。

【事務局】

配布は、特に今のところは考えておりませんが、ホームページや広報で周知をしていきたいというふうには考えております。

また概要版を作りますので、そういったものについてはそれで全戸配付というところまでいかないですが、回覧などについては、検討はしたいと思っております。

【会 長】

いかがでしょう。

【渡邊委員】

中学生もまちづくりスクールミーティングに参加していて関心があると思うので、できれば中学生からお年寄りの方まで、誰が読んでもわかりやすい文章、イラスト、写真にしてほしいです。専門的用語が多く、私には難しく感じます。

住民の方が望んでいることは、今まで出した要望がどう改善していつもらえるのか？だと思うので、ここを強調してほしいです。私としては、東部地域は高齢者も多く、免許返納時 交通の便が懸念されるので、群馬県富岡市で実施している乗り合い型タクシーなども検討してあげてほしいです。

【会 長】

なるほど、分かりました。ありがとうございます。

今のことに関連して、この構想案が出来上がったときに市の広報で案内するようなことはお考えではないのかという話と、それともう一つ、私はよくこういうのをお手伝いしたときには、関連する小学校と中学校の図書には贈呈をしてほしいと。かつ、その小学校、中学校から、出前講座ですね。説明会を求められたら出前講座のような形で説明に行くという、こんなフォローアップが非常に重要、という話で、そういう取組の仕方をしてもらうのですが、その辺りはいかがでしょうか。来年度の話になるかもしれませんが。

【事務局】

前向きに検討させていただきます。

【会 長】

そうですね。

【和田委員】

会長、よろしいですか。

【会 長】

和田委員、どうぞ。

【和田委員】

今会長がおっしゃったこと、すごくいいと思いますし、せっかくワークショップで皆さん集まっているのであれば、そこに対して最低でも説明会を開くみたいなことをしていただいたほうが、よりまた次回、その人たちが主体的に取り組むきっかけになると思いますので、小学校を全部回るのはしんどいかもしれないのですが、ワークショップを開いて一緒にやった人たちに対しては、この振興構想を説明して意見を聞くという機会をぜひ持っていただきたいなと思います。

【会 長】

そうですね。はい、ありがとうございます。

三木委員、どうぞ。

【三木委員】

この10年の計画の中に、桃花台の財産がどんなものがまだあるのかというのを明確にして、それをこの10年でどんなふうに扱っていくのかということをも具体的にに入れてほしいと思うんです。

例えば愛知文教大学、造形大学、14ページを見ると分かりやすいんですけどね。それから旧ピーチライナーの車両基地跡地、わざわざ箱書きしてくれています。すごく桃花台の周辺の大事な財産だと思うのですが、今後10年でどんなふうにこれが生まれ変わるのかという計画を、知らない間に何か変わっていくのではなく、ちゃんと注意してどんなふうに扱っていくかというのを見ていくだけじゃなくて、どう使っていけば桃花台のインフラのためによくなるかとか、そんな話合いができればなあと思っているんですが、どこかそういうことを項目の中に入れていただけないでしょうか。

【会 長】

新たに、具体的に車両基地跡などをどうしましょうかというのは、今の段階からは無理だと思います。1月17日にパブコメをかけるというスケジュールからいくと。

ただし、基本的には今答えを出すということではなく、この東部まちづくり審議会なりワークショップというのは、そういう地域課題を議論する場が形成されていくということが非常に重要で、ここで10年後の答えを出すのではなくて、要するに考える場を設定して行って、それが行動につながっていくということが、この構想で実現できるんですよということを示したいということだと思います。

だからここで、今新たな課題として新交通システムの跡地どうするんですかとかいう具体論を書くというよりも、むしろそういう課題に対して地域でどんな話合いとか、どんな考える機会であるとか、それに関わっていく機会みたいなやつをどうつくっていくんですかということはこの構想案は示しているということだと思います。

【三木委員】

おっしゃるとおりで、何も決定する話をするわけじゃなくて、着々と解体工事が進んで行って、そこがどういうふうになっていくかというのを取り決めすることなく愛知県はアスファルトを敷いたりとか、取りあえずのことをしています。

そういった現状というのを桃花台の人が知っておかないと、先ほど落合委員も負の遺産じゃなくて何かそういう言い方でされていたのですが、僕はあんまりマイナス的な考えじゃないのですが、そこに関しては。次、これがどう生まれ変わるかということが次のまちづくりの構想の大事なポイントになるのでないのかなという気がするので、みんなにお知らせしておかないと思うんです。

【会 長】

まさにプラットフォームを形成したいと言っている意味がそういうことなんです。

プラットフォームというのは、2つの機能を持っていて、1つは地域課題とか情報がプラットフォームの中に常に流れてきて、そこで議論できる場が設定されるというのが機能の1つなんです。もう一つは、そのプラットフォームの中が、何らかの新しいチャレンジの行動の起点になっていくと。

そういう仕組みをここでつくりたいというのがこの構想の大きな趣旨なんで、今おっしゃっているようなことを、できたらこの計画の進め方の中に書くということだと思います。よろしいでしょうかね。

【三木委員】

よく分かりました。

【会 長】

そんなことだと思います。だから、せっかくワークショップしたのは将来のプラットフォームを構築するためですから、そのワークショップが地域のプラットフォームにつながっていきますよと。地域の中のプラットフォームというのは、こんなふうに情報と行動起点みたいな形でつながっていきますよというようなことをこの53ページのところに工夫して、これから日数はないですけども、

そこをぜひとも事務局のほうにも汗をかいていただいて、書き込むということだと思いますが、よろしいでしょうかね。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

中川委員、どうぞ。

【中川委員】

2点お願いいたします。

まずこの構想ですけれども、一応31年というふうになっておりますが、仮に10項目が決まったとした場合に、それに必ず付け加えていただきたいのが期日、期限、月の構想を立てていただきたい。また、それを明確に最初から打ち出していただければなあという気がいたします。読む側におきまして、聞く側におきましては、本当にできるのという感じになると思いますので、やはり目標と期日、期限ですね。これが非常に重要になってくると思いますので、そういったことも明記しながら進めればなあと思います。

それから2点目でございますが、私たちこの審議会のほうでいろんな構想、希望、願望を出しておりますけれども、果たしてこれが、小牧市が本当に求めているものと合致するのでしょうか。ひょっとすれば、全く正反対な方向で動いているとするならば、基本的にはスポンサーは小牧市だと思いますので、やはりそれで一致していかなければただただ遠回りした結果にすぎないのではないかと、そういった気がいたしますので、ここで小牧市としての都市構想もやはり打ち出していただいたほうがいいのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

【会 長】

東部振興構想策定の主体は表紙にあるように小牧市ですので、これはここの審議会が策定をしたという話ではなくて、小牧市が責任を持って出すということだと思いますけれども。

【中川委員】

それは分かります。

【会 長】

したがって、小牧市で考えていることと、この審議会で考えていることが不一致で公表されていくということはないと思います。

【中川委員】

ああそうですか、分かりました。

2番目の都市構想ですけれども、意外に民間のほうがどんどん進めていきます。東部の大草地域の産業廃棄物関連ですけれども、どんどんスピードが速い。土地の購入も早い。それから工事も早い。それに行政が後追いをする形であったら、都市構想も潰れてしまうのではないかと思いますので、そういった面で早く小牧市としてどういう東部地域のまち構想をしていくのかということ打ち出していただければなあという気がいたします。

【会 長】

それは先ほども少し小柳委員からもありましたけれども、都市マスタープランや市の総合計画である一定、上位計画としてこの地域はどういうふうに考えられているのかというのは分かるのに、3ページ目の上位計画のところをあらためて全部書いたら膨大な資料になるのではということだと思います。どこにも無いという話ではないと思います。

何か事務局ございますか、今の話の中で。

多分ここにございますように、3ページ目の小牧市都市計画マスタープランとか小牧市立地適正化計画、その上に小牧市のまちづくり推進計画だとか、こういう辺りが全部ちゃんと、無いわけではなくてきちっと位置づいているということですね。その内容の中でこれが展開、それと整合する形で展開していっていると、そういう理解をいただいたらいいのかなあと思うんですけども、よろしいでしょうかね。

【中川委員】

はい。

【落合委員】

ちょっとよろしいですか。

【会 長】

はい。

【落合委員】

今言われていますのは、砂防地内で土砂の仮置きとか、そういう形でどんどん埋めているのです。そうすると、結局きちっとした砂防工事じゃないので、土砂はどんどん積むけど、始めはきれいに盛って他所へ搬出しますよということで説明されますが、実際はやり放題して、放置されてしまう。それで、いい土だけ取り出しておいて、そこへガラみたいなものを捨てて、それらが仮置きだと言われて法的にも規制がかからないことがネックになっているわけです。

ですので、市のほうはきちっと仮置きでも何でも、とにかく地元の産廃を捨てられないように取り締まっていくという姿勢が、東部振興構想とは関係ない話になってくるんですけども、そういう姿勢が出せるか出せんかだけであって、現実には上末もだけど、すごい7メートルも土砂を積んでいて、昔のごみを燃やしていたところの上へ土をかぶせたり、そういうことが現実に、今大草もだし上末もだし、周辺では起こっているわけですね。ですので、そういう問題をこれはなかなか全面的には触れられないにしても、そういうことがありますよということですので、市のほうはその意見を聞いておいてもらって、段階を踏んで取り締まっていくというきちっとした姿勢を打ち出せない限りは私たちごっこでどんどん土壌は汚染される、結局産廃のところへ新しい計画が出てくる、そういうことで地元も本当に困っていると。ヤードがあって、農道も車をいっぱい止めてしまっても通れないとか。そんなのが実情なので、それはこの前のときにも大分言ってみえたんですけども、周辺の部落はみんな一緒です。

そういうことを市のほうへ、ここは別にこういう場で意見も出たよということで、事務局のほうがかちっと砂防なら砂防で取り締まる必要があるという姿勢を引いてくれればそれでありがたい

話です。大変失礼なことを申し上げましたが、実態は小牧と瀬戸、多治見の辺は、砂防は無法地帯だと言われるぐらいひどい状態です。それと昔の亜炭鉱の跡もありますし、いろいろの面で計画に乗せ切れない問題を周辺は抱えているよということで御理解願えればありがたいと思いますけれども、以上です。

【会 長】

ありがとうございます。

その辺りは、基本的にはきっちりと議事録として残して、これ議事録は公表されていますか。公表していますよね、秘密会議でも何でもないので。

【事務局】

はい、公表しております。

【会 長】

そういう辺りで大事にさせていただくということだと思います。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。今日、あと発言いただいてない方、蛭原委員。

【蛭原委員】

発言をしていなかったもので、ここで意見させていただきます。構想案ができて公表してパブリックコメントを行うということで、その際にホームページ等で公表するということでしたが、やはりせっかくなので、誰に見てもらおうのかということ、どれだけの人たちの目に触れてもらうかがすごく大事なのではないかと僕は個人的に思います。検索をして見に来る人というのはもともと興味のある方です。東部地域に住み暮らす人たちに、市内全体はもちろんだと思いますが、そこに住み暮らす人たちにしっかりと届いて、その人たちが当事者意識を持ってどう意識を変えて動いていくかという部分が大事なのかなと思うと、その人たちに届くような公表をしていただけないのかなというのが1つです。

あと何度もずっと出ていた部分、この構成の仕方というか、先ほど渡邊委員のほうからもあったように、資料が多い分、全て目を通すのってというのは興味のある人なのかなと。自分自身が当事者意識を持っている方なのかなと思うと、やはりどう構成を組んで分かりやすくどう伝えるか、端的に伝えるか、分かりやすく伝えるかが大事なのかなと思うので、構成も組み直してもらって、見てもらった方にすぐインパクトが残るような、せっかくの構想案というものをつくってもらっているので、していただければいいのかなと思いました。

問題点とかに関しては、すごいいろいろ調べてもらって出ているものだと思うので、そちらに関しては特に意見はないのですが、届けるものなのでしっかりとたくさんの方に届けていただけないかなと思いました。

【会 長】

ありがとうございます。

パブコメのかけ方として、どんなことを想定されているのでしょうか。

【事務局】

まず広報でお知らせをさせていただきます。構想案につきましては、市役所の事務室と、情報公開のコーナー、それから公共施設といたしましては東部、味岡、北里の各市民センター、各市民センター内の図書室、それからコミュニティセンターのゆう友せいぶ、ふらっとみなみに設置をいたしまして見ていただくような形を取ろうかと考えております。

【会 長】

極力、東部地域で配架する場所ですね。極力多くしてほしいという話と、先ほど和田委員からも御指摘あったように、せつかく40名弱の方々がワークショップをしていただいたので、そのメンバーには原案を出して、気づいている点ですね。意見があれば出してもらおうというのは最低限していただくというようなことも大事かと思えますね。

あとはもう一点、これ時間的な問題がありますが、A4裏表ぐらいで概要版を作つてというふうなことが可能かどうかということなんですけどね。その辺は事務局、いかがでしょうかね。

【事務局】

確かに、構想というのはかなり分厚くて内容が多岐にわたりますので、こちらのほうがまとまりまして時間的に余裕があるようでしたら、参考としてより分かりやすく見やすくという形の概要版の作成も検討したいと思います。

【会 長】

そうですね。ちょっと検討していただいて、先ほど渡邊委員からもあつて、これ全部1ページ目から読むのは大変で、中身がやっぱりA4裏表ぐらいで見られると意見も出しやすいのではないかなというような辺りかと思うんですけどね。

深堀委員、どうぞ。

【深堀委員】

参考になるかどうかなんですけれども、実は小牧市で小学校単位の地域協議会を立ち上げるというのでかなり長い年数をかけて取り組んでいますけれども、私どものところで住民に個別に説明しても大変な時間がかかるというので地域の合同説明会というのを実は2年かけてやりました。それで協議会をやつと立ち上げることに皆さんの同意をもらったわけなんですけれども、これも地域住民説明会というのを東部市民センターとか、そういうところを使ってやってみてはどうでしょうか。結構関心が高いと思いますよ、東部のゾーンの人たちは。そういうのも一つの手だと思います。広報とかホームページという手もありますけれども、地域説明会というのを一度やるというのも一つの手かなあと私は思います。

【会 長】

事務局のほうはいかがでしょうかね。一度それも検討いただくということだと思いますが、何か御発言ございますでしょうか。いかがでしょう。

【事務局】

一度整理させていただきまして、検討させていただきたいと思います。

【会 長】

はい、分かりました。よろしくお願いします。

【和田委員】

よろしいですか。

【会 長】

はい。

【和田委員】

手法ですけど、ウェブもいいのではないですかね。今もうZoomでどんどん発信して、小学生や中学生も授業で使ったりしていますので、多岐に説明するというので、ハイブリッドでやってもいいですし、ウェブでそういう説明会を行うということも一つ検討に入れていただければと思います。

【会 長】

はい、分かりました。ありがとうございます。

一応、今日予定しておりました時間がそろそろだと思いましたが、どうしてももう一言、二言、御発言があるという方、いらっしゃるでしょうか。

村上委員、どうぞ。

【村上委員】

検討を重ねましたのでこの構想（案）は、この程度で良いと思います。構成については専門の先生が見えるのでお任せしたいと思います。いろんな話が今は出ていましたが、一般の方はこの構想（案）を見て将来の夢が抱けないと思われれます。そんな構想（案）なっています。

先ほど発言がありましたが、どういうレベルの方にお配りして見てもらうのか分かりませんが、一般市民としては、あまりにも横文字が多くて、普段使わない専門用語がいっぱいあって、本当に興味がある方しか分からないと思います。

長い文章構成の割には、53、54で結論が2ページで、バランス的にこんなんでという感じです。もうちょっと平易な言葉を使い、一般の市民でも分かるような書類をお願いしたいと思います。

それと27、28ページに今はやりのSDGsですが、このマークがあって、この文章とどういう関連があるのか分かりません。このマークを使われるのであれば、どのゴール番号とリンクした文章なのか、まとめ方の工夫がして欲しいと思います。

【会 長】

ありがとうございます。

一応、大体皆さん方から意見をいただいたかというふうに思いますけれども、よろしいでしょう

か。

少し編集は工夫させていただくというのと、もう一つはできれば概要版を作るということと、今御説明あったように、少し片仮名のところについては語句の説明のページを作ると。分かりにくい言葉に対しては、説明のところをつける。

特に、今日一番議論の集中したのが53ページ、54ページ、55ページ、この辺りのところを少し工夫して、どういう形で進んでいくかということが分かるような形で少し補強をしていくと。

大きくは大体それぐらいで、あと細かな指摘も重要な指摘もいただいておりますけれども、大きな指摘はそういうところで、あとはパブコメの工夫ですね。どんなところに配架するのかとか、地元説明会も含めてどういう形で分かりやすく意見を求めるのかというのは事務局のほうで一度御検討いただいて対応していくというふうなことでよろしいでしょうかね。

ありがとうございます。

ちょっと正月を挟むので、どれぐらい、今日いただいた意見を反映させた形でパブコメに持ち込めるかというのは、全て反映できるかというとなかなか難しいところもあるかと思っておりますけれども、それはお許しいただいて、パブコメをかけて、もう一度ここで議論できる場がありますので、そこで残された議論はもう一度すると。リーディングプロジェクトも含めてですね。そういう形で進めさせていただきたいと。

大塚先生、何かございますでしょうか。

【大塚委員】

今会長が言っていたことで、結局、皆さんの御意見、どう実現するかというところが重要だというのは皆さんの共通で、これだけじゃちょっとまだ見えない部分があるというのは、それはリーディングプロジェクトというのが表に出てきていないということで、そのリーディングプロジェクトというものをにおわせながら、それをプラットフォーム、ワークショップ、審議会というふうなものがどう関係しながら進めていくのかというのが最後に入るだけでも、それでもうかなりよくなると思いますね。

【会 長】

そうですね。そう思いますね。ありがとうございます。

よろしいでしょうか、そういうことで。

大分宿題もたくさんいただきましたけれども、ある意味それだけ構想案に対する期待も大きいということだと思いますので、極力事務局のほうで、これを見たらさあ一步踏み出せましたねというふうな形にぜひともなるようにということで、会長と職務代理に一任いただいて、極力今日いただいたやつを反映しながらパブコメへ持ち込みたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、その他何か事務局、ございますでしょうか。

【事務局】

先ほど御議論いただきました構想案につきまして、会長、職務代理と共に修正していきたいと思

っておりますので、またこちらの構想案ができましたら委員の皆様のように郵送で送らせていただきたいと思っております。

それから、繰り返しになりますが、パブリックコメントにつきましては年明けの1月17日から2月15日を予定しております、市のホームページのほか市役所の事務室、情報公開コーナーの2か所、それから公共施設といたしまして東部、味岡、北里の各市民センターと図書室、ゆう友せいぶ、ふらっとみなみ、こちらのほうに構想案を設置したいと考えております。こちらのほうは設置いたしまして、郵送、ファックス、メール等での意見募集を行っていく予定でございます。

それから、パブリックコメントを実施しました後、第6回の審議会につきましては、3月25日金曜日に開催する予定でございますので、皆様方の御出席をよろしくお願いしたいと思います。以上でございます。

【会 長】

ありがとうございました。

コロナ禍の中で議論を進めてまいりました。まだ御不満なところもたくさん残ったかと思えますけれども、極力今日いただいた意見を反映しながらパブコメにかけて、再度もう一度3月に議論の場を持つということでお許しいただきたいなあというふうに思っております。

今日で年末ですので、皆さん、今日はクリスマスですね。メリークリスマスというのと、いいお年をお迎えくださいと。まだあともう一踏ん張りしないと構想案がまとまりませんので、御協力をお願いして、今日の審議会、5回目を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

事務局にお返ししたいと思います。

【事務局】

委員の皆様におかれましては、本日、お忙しい中、長時間にわたり御議論いただきまして、誠にありがとうございました。

なお、本日の会議の会議録につきましては、作成次第、委員の皆様へ送付いたしまして、内容の確認をしていただきたいと思いますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

以上をもちまして第5回小牧市東部まちづくり審議会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。